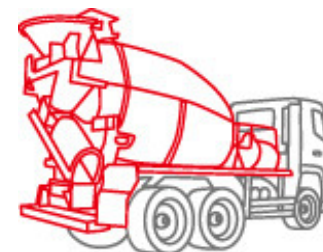
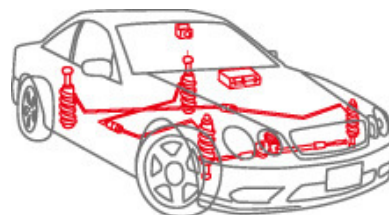
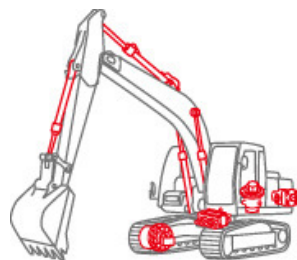


平成26年3月期 決算説明会



2014年5月15日

KYB株式会社
代表取締役 社長執行役員
臼井 政夫

目次

1. 業績概要

- (1) 2013年度 連結決算概要
- (2) セグメント情報

2. 2014年度 連結業績見通し

3. 14中期(2014～2016年)計画について

- (1) 11中期の振り返り
- (2) 現環境認識
- (3) 14中期経営戦略
- (4) 14中期の取り組み
- (5) 設備投資
- (6) 14中期利益計画

1. 業績概要

(1) 2013年度 連結業績概要

1-1. 業績概要 2013年度決算のポイント



増収増益

✓ 海外売上比率が初めて50%を超えた

- 海外比率52%(欧州17%、北米11%、中国7%等)

✓ 国内売上が好調に推移

(消費税増税および排ガス規制(建機)前の駆け込み需要)

- 国内売上高 70億円増加
HC +44億円 AC +15億円

✓ 円安による為替効果

- 為替影響 売上高288億円増、営業利益74億円増

1-1. 業績概要 2013年度 連結決算概要

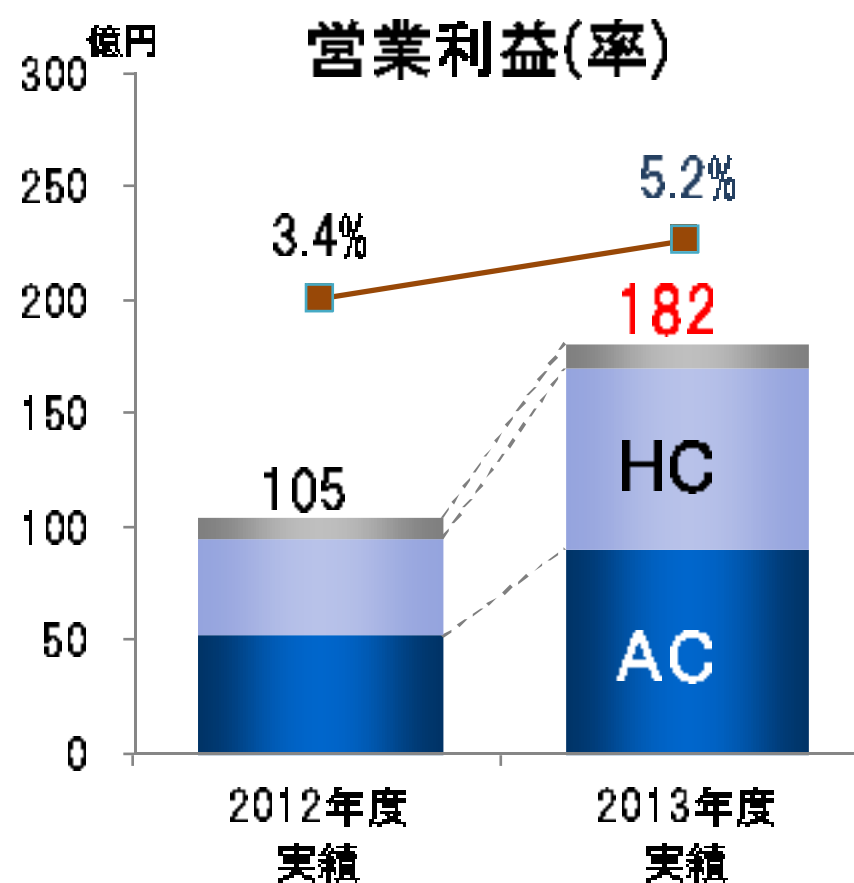
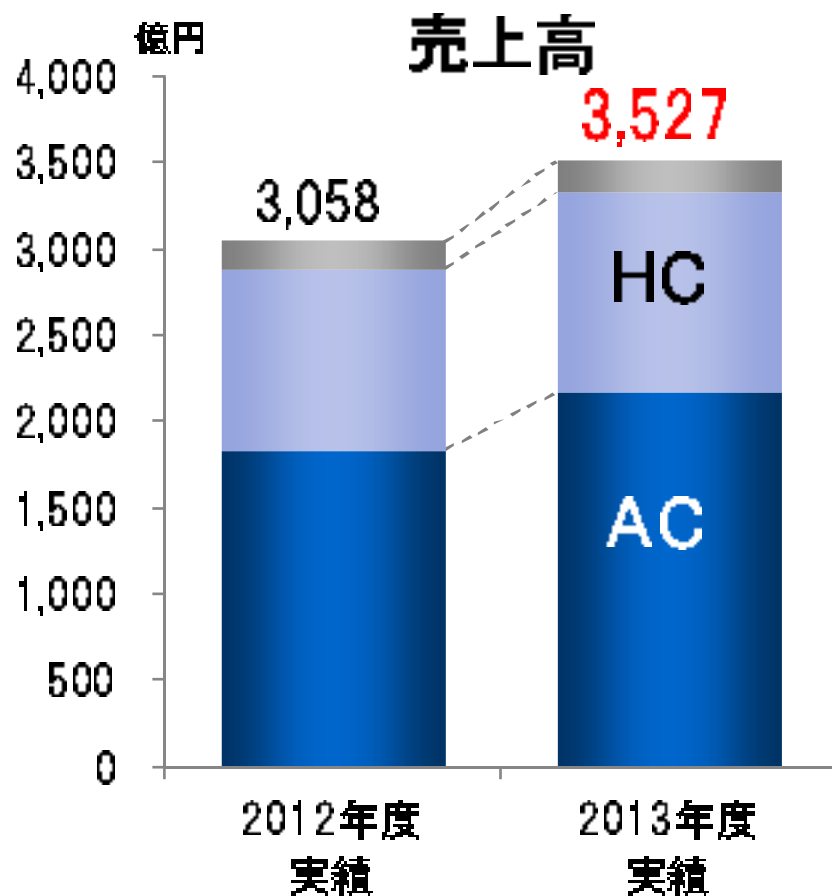


単位: 億円	11中期 目標	2012年度 通期実績	2013年度 予想(2月)	2013年度 通期実績	増減額 (前年比)
売上高	4,000	3,058	3,454	3,527	+469
営業利益	320	105	187	182	+77
経常利益	—	136	199	204	+68
当期純利益	—	78	122	128	+50

一株当たり 当期純利益	—	35.24円	47.75円	55.26円	+20.02円
----------------	---	--------	--------	--------	---------

為替レート(平均レート)	2012年度 実績	2013年度 実績
円 / U S \$	83.11円	100.24円
円 / E U R	107.14円	134.37円

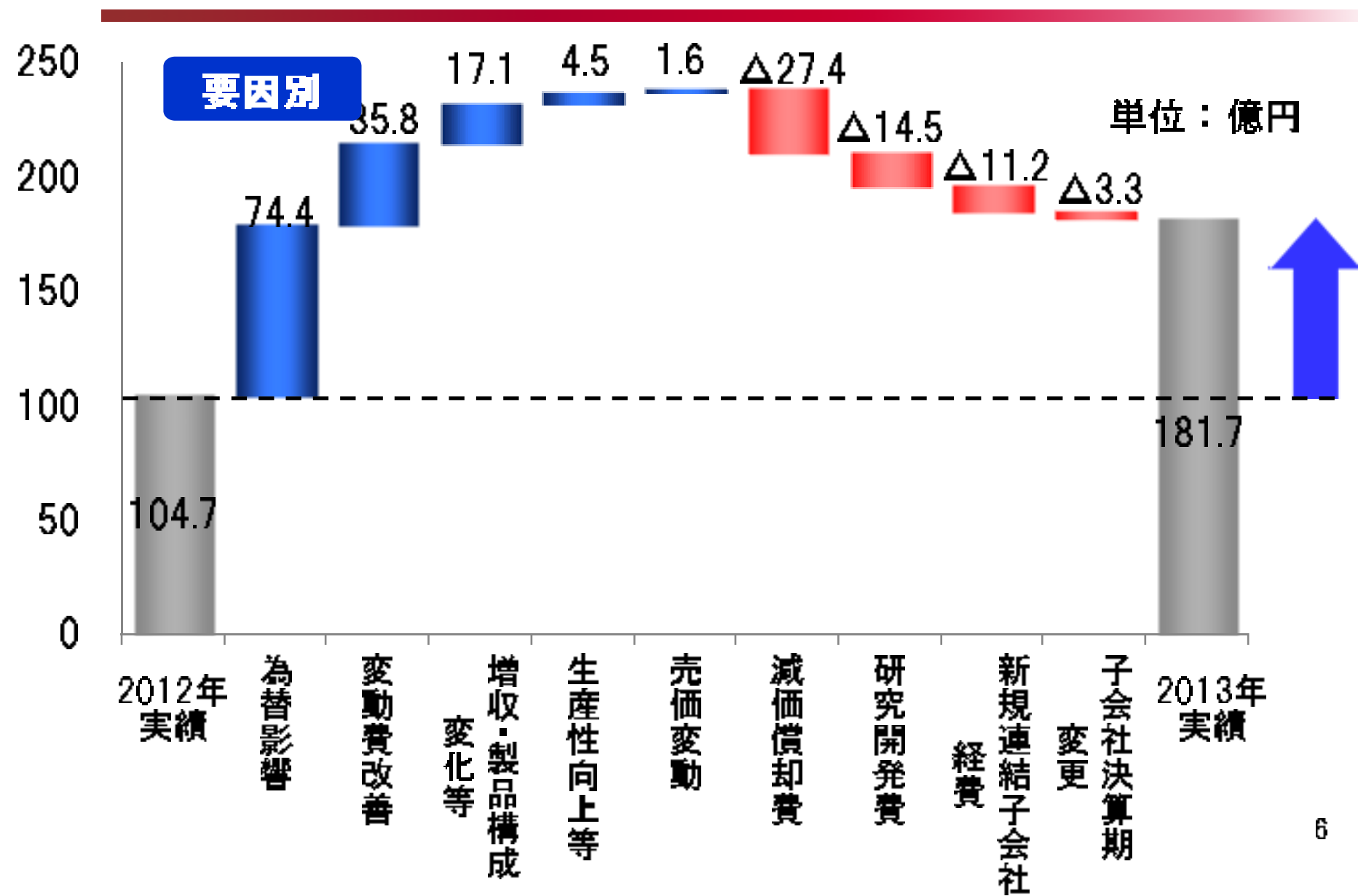
1-1. 業績概要 2013年度 連結決算概要



単位: 億円	売上高		
	2012年度実績	2013年度実績	増減額 (前年比)
AC事業	1,848	2,189	+341 (+18.5%)
HC事業	1,051	1,155	+104 (+9.9%)
特装システム等	159	183	+24 (+15.1%)

2012年度実績	2013年度実績	営業利益	
		2012年度実績	2013年度実績
53	91	43	80
		9	11

1-1. 業績概要 連結営業利益増減



1. 業績概要

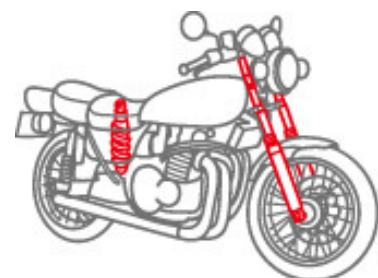
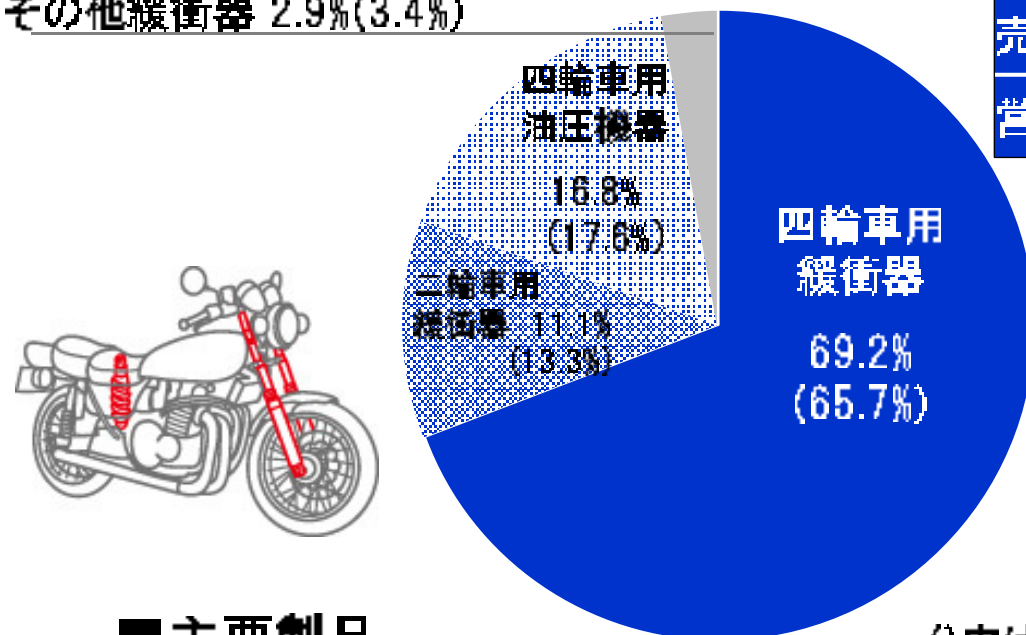
(2) セグメント情報

1-2. セグメント情報

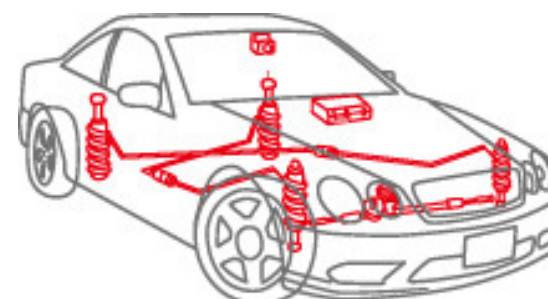
AC(オートモーティブ・コンポーネンツ)事業

セグメント内訳

その他緩衝器 2.9%(3.4%)



	2012年度	2013年度	増減額
売上高	1,848億円	2,189億円	+341億円
営業利益	53億円	91億円	+38億円



■主要製品

()内は2012年度構成比率

四輪車用緩衝器: ショックアブソーバ(OEM、市販、純正部品)

二輪車用緩衝器: フロントフォーク、リアクッションユニット

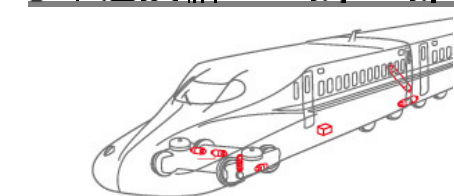
四輪車用油圧機器: CVT(無段変速機)用ポンプ、パワーステアリング(油圧・電動)

その他製品 : ステアダンパ、ATV(全地形対応車)用機器

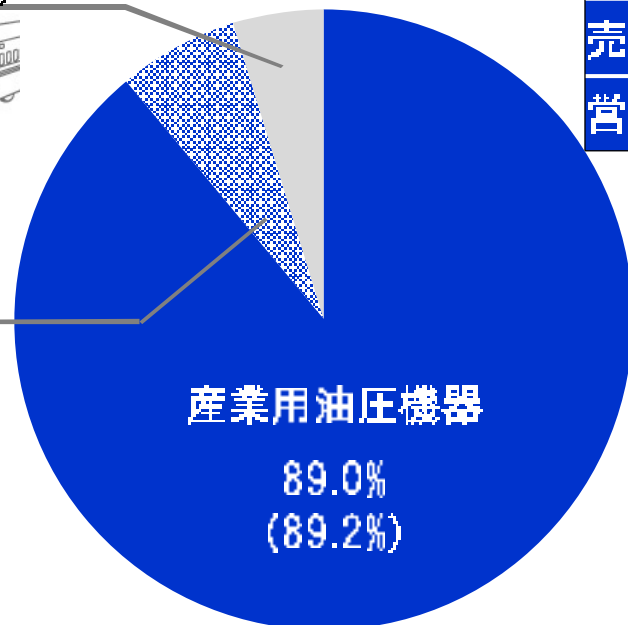
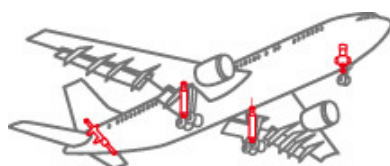
1-2. セグメント情報 HC(ハイドロリック・コンポーネンツ)事業

その他油機 4.7%(5.2%)

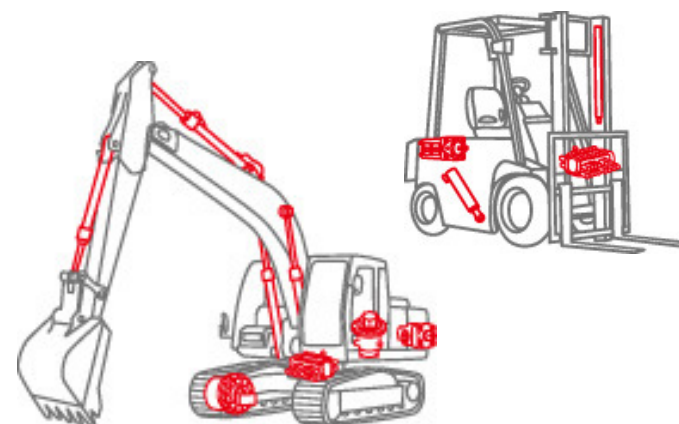
セグメント内訳



航空機用
油圧機器 6.3%(5.6%)



	2012年度	2013年度	増減額
売上高	1,051億円	1,155億円	+104億円
営業利益	43億円	80億円	+37億円



■ 主要製品

()内は2012年度構成比率

産業用油圧機器 : シリンダ、走行モータ、旋回モータ、コントロールバルブ、ポンプ
(建設機械、フォークリフト、農業機械向け)

航空機用油圧機器 : アクチュエータ、ホイールブレーキ

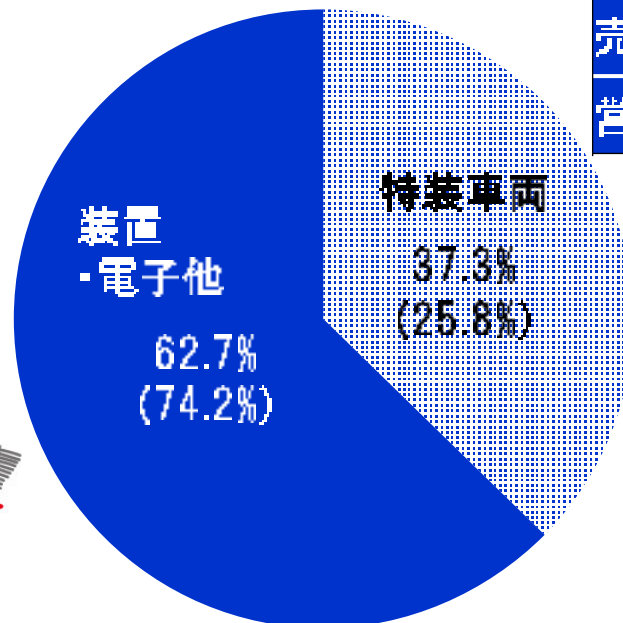
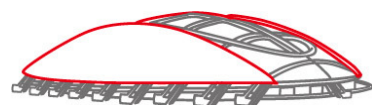
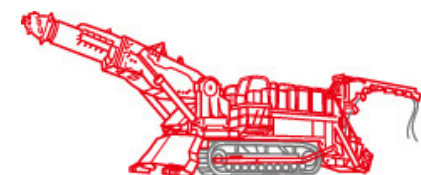
その他製品 : 鉄道用ダンパ、セミアクティブシステム

1-2. セグメント情報

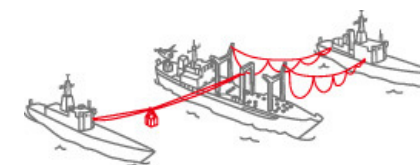


特装車両事業、システム製品および電子機器等 *Our Precision, Your Advantage*

セグメント内訳



	2012年度	2013年度	増減額
売上高	159億円	183億円	+24億円
営業利益	9億円	11億円	+2億円



■主要製品

()内は2012年度構成比率

特装車両 : コンクリートミキサ車

装置・電子他: 免制震装置、舞台機構、建物装置、トンネル掘削機

船舶機器、試験装置、環境関連装置、電子機器

トピックス 公募増資(2013年12月)

ファイナンスの目的

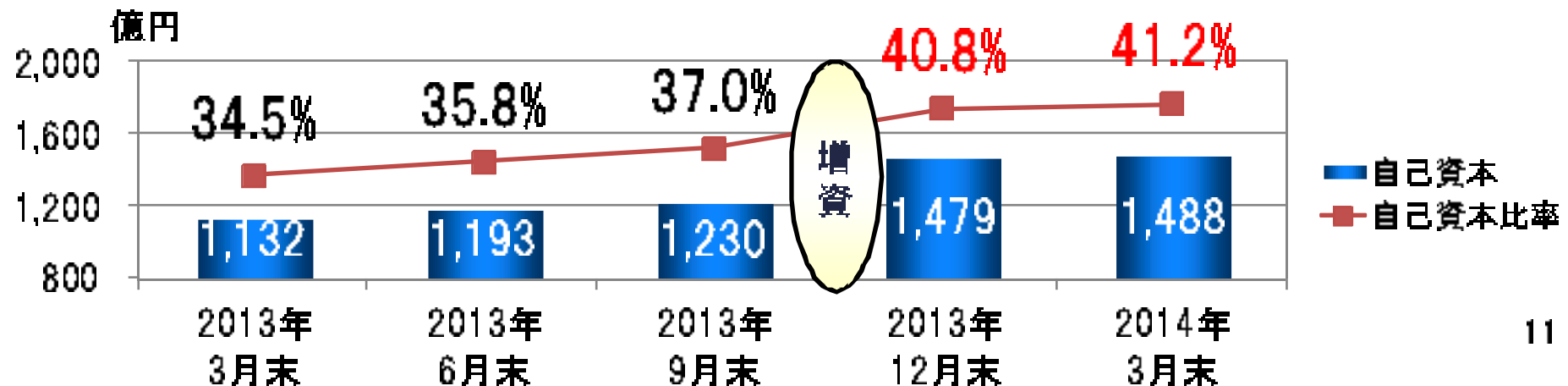
- グループ成長のための投資
 - ✓ グローバル事業基盤強化の着実な実行
- 次期中計‘Phase II’のスタートを控え財務基盤を強化

資金使途について

- 国内外の弊社グループ生産体制の充実にに向けた設備投資

資金調達額 **170億円** 資本金繰入額 85億円

株式数増加 **34.5百万株**(発行済み株式数 257,484,313株)



2. 2014年度 連結業績見通し

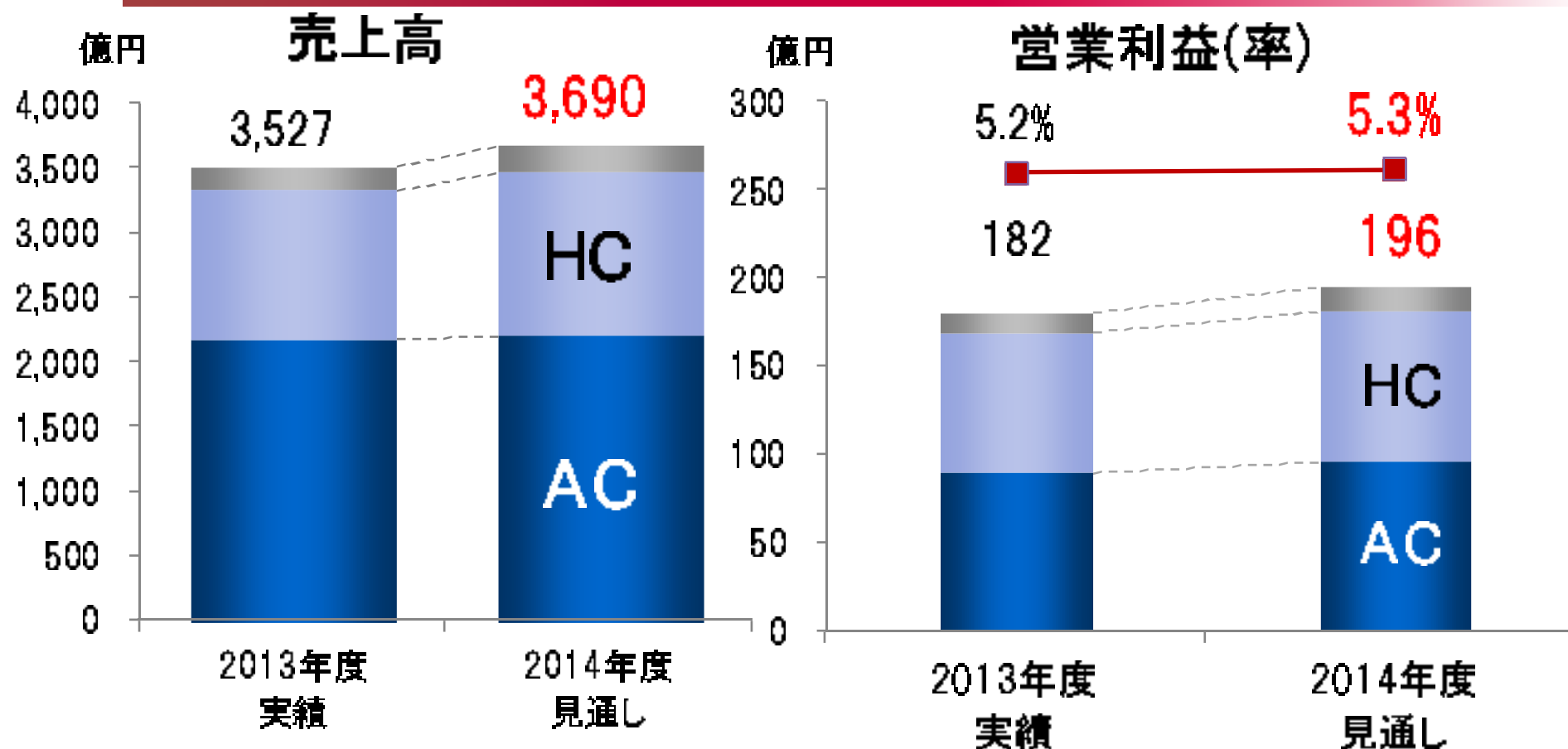
2. 2014年 連結決算見通し

単位：億円	2013年度 通期実績	2014年度 上期見通し	2014年度 下期見通し	2014年度 通期見通し	増減額 (前年比)
売上高	3,527	1,810	1,880	3,690	+163
営業利益	182	96	100	196	+14
経常利益	204	96	104	200	△4
当期純利益	128	57	63	120	△8

一株当たり 当期純利益	55.26円	22.31円	24.66円	46.97円	△8.29円
----------------	--------	--------	--------	--------	--------

為替レート(平均レート)	2013年度 実績	2014年度 想定
円 / U S \$	100.24円	100.00円
円 / E U R	134.37円	135.00円

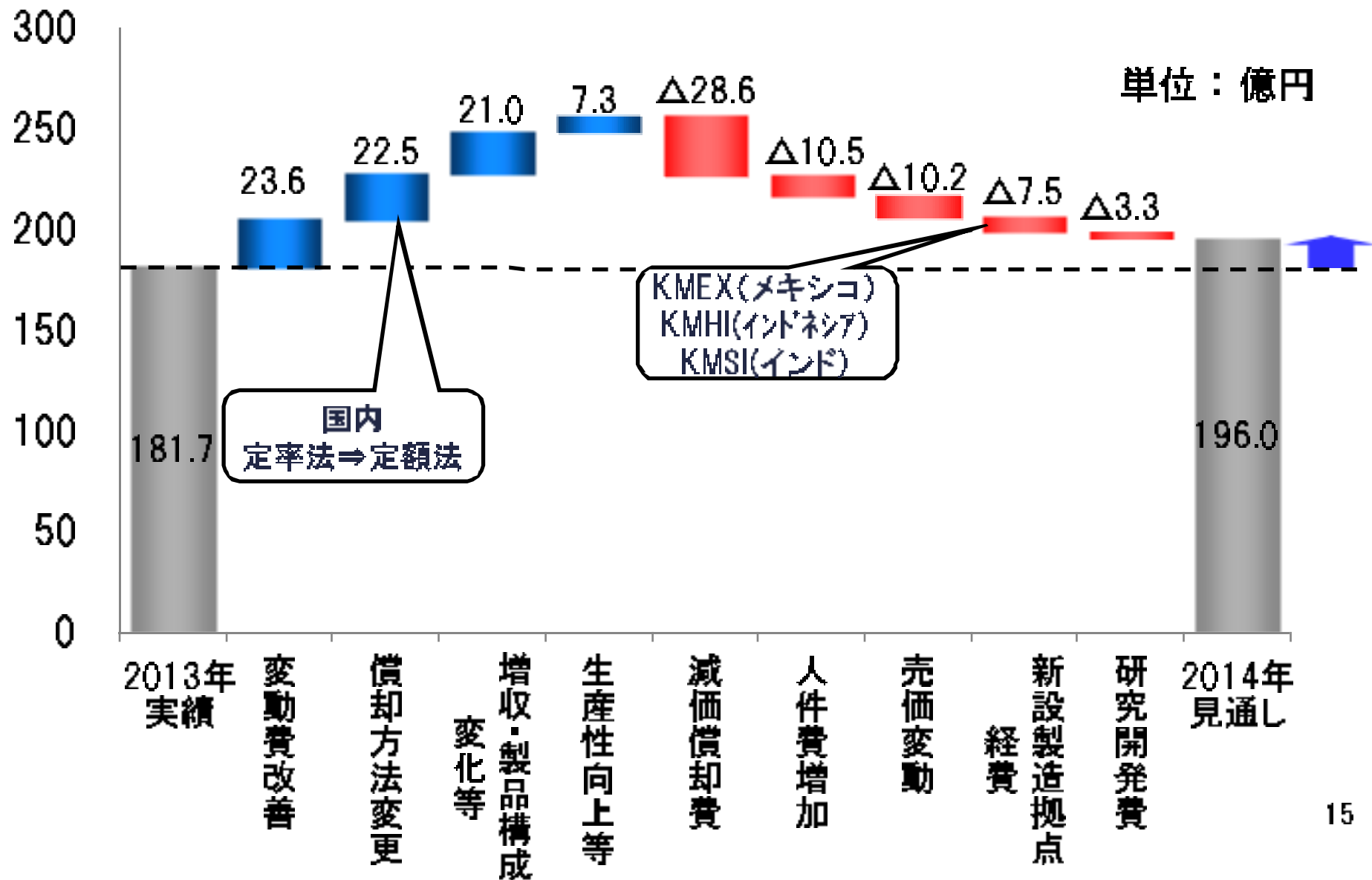
2. 2014年度 連結業績見通し



単位:億円	売上高		
	2013年度実績	2014年度見通し	増減額 (前年比)
A C 事業	2,189	2,218	+29 (+1.3%)
H C 事業	1,155	1,263	+108 (+9.4%)
特装システム他	183	209	+26 (+14.2%)

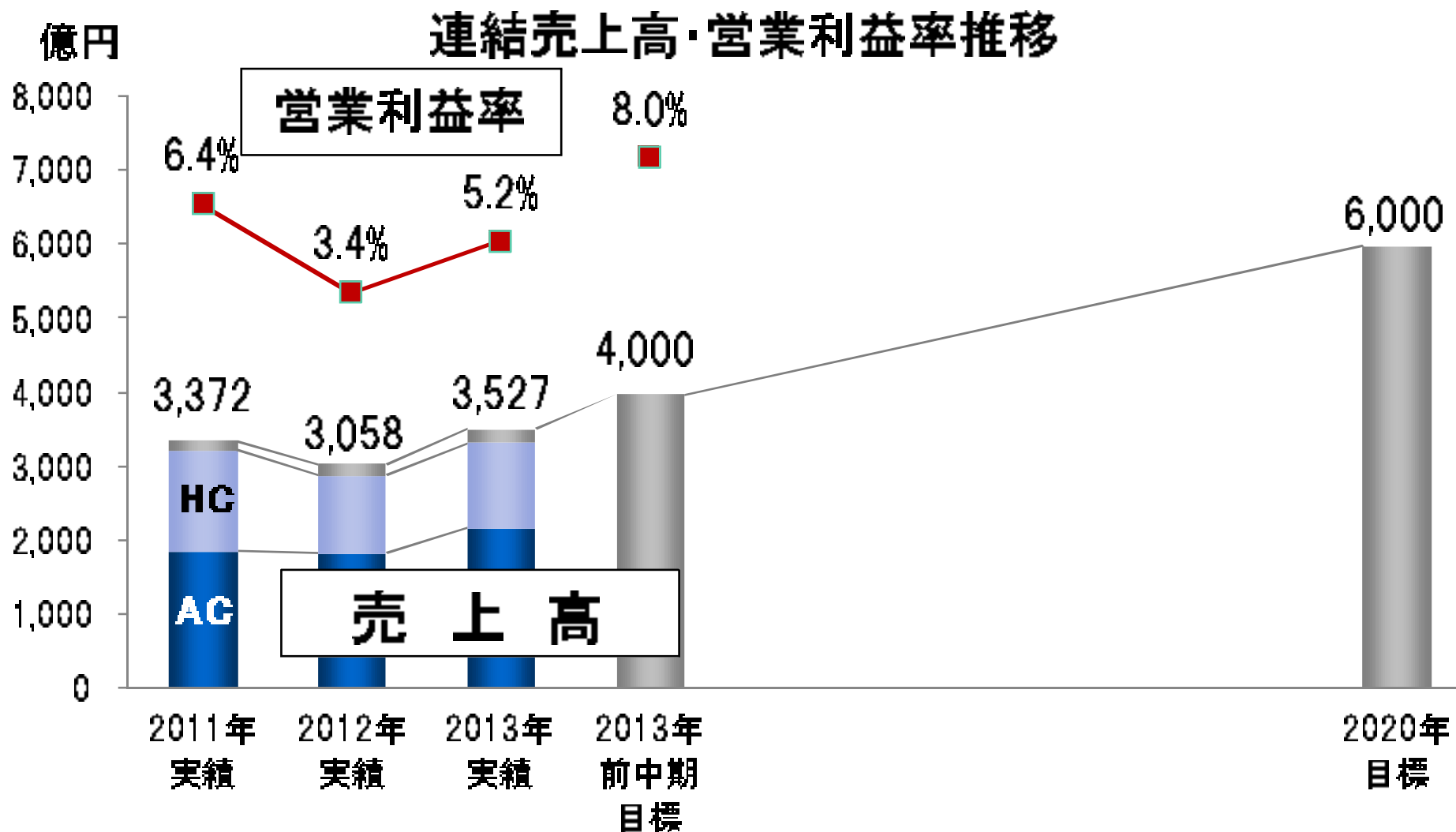
営業利益		
2013年度実績	2014年度見通し	増減額 (前年比)
91	97	+6 (+6.6%)
80	85	+5 (+6.3%)
11	14	+3 (+27.3%)

2. 2014年度連結営業利益増減

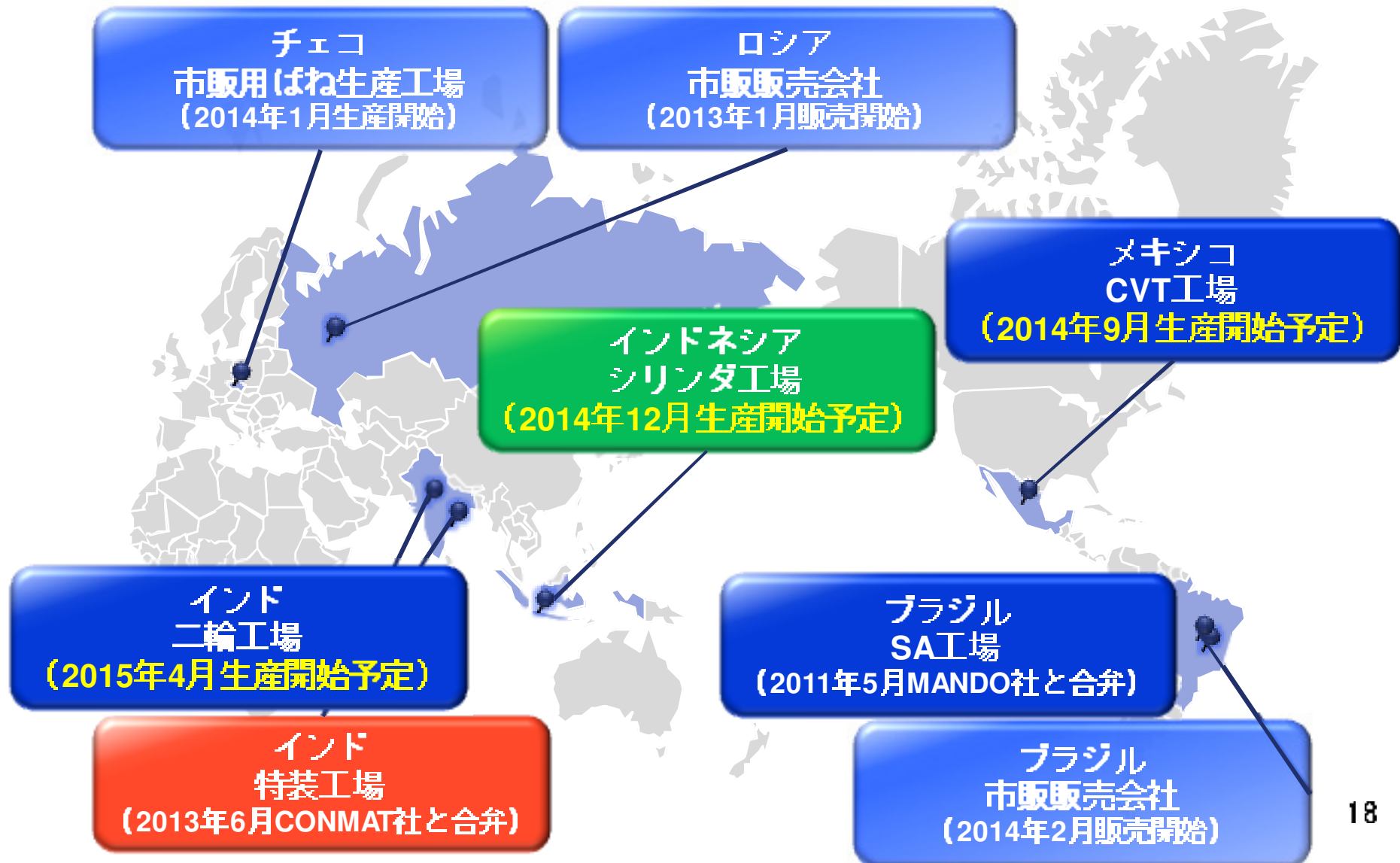


3. 14中期(2014~16)計画 について

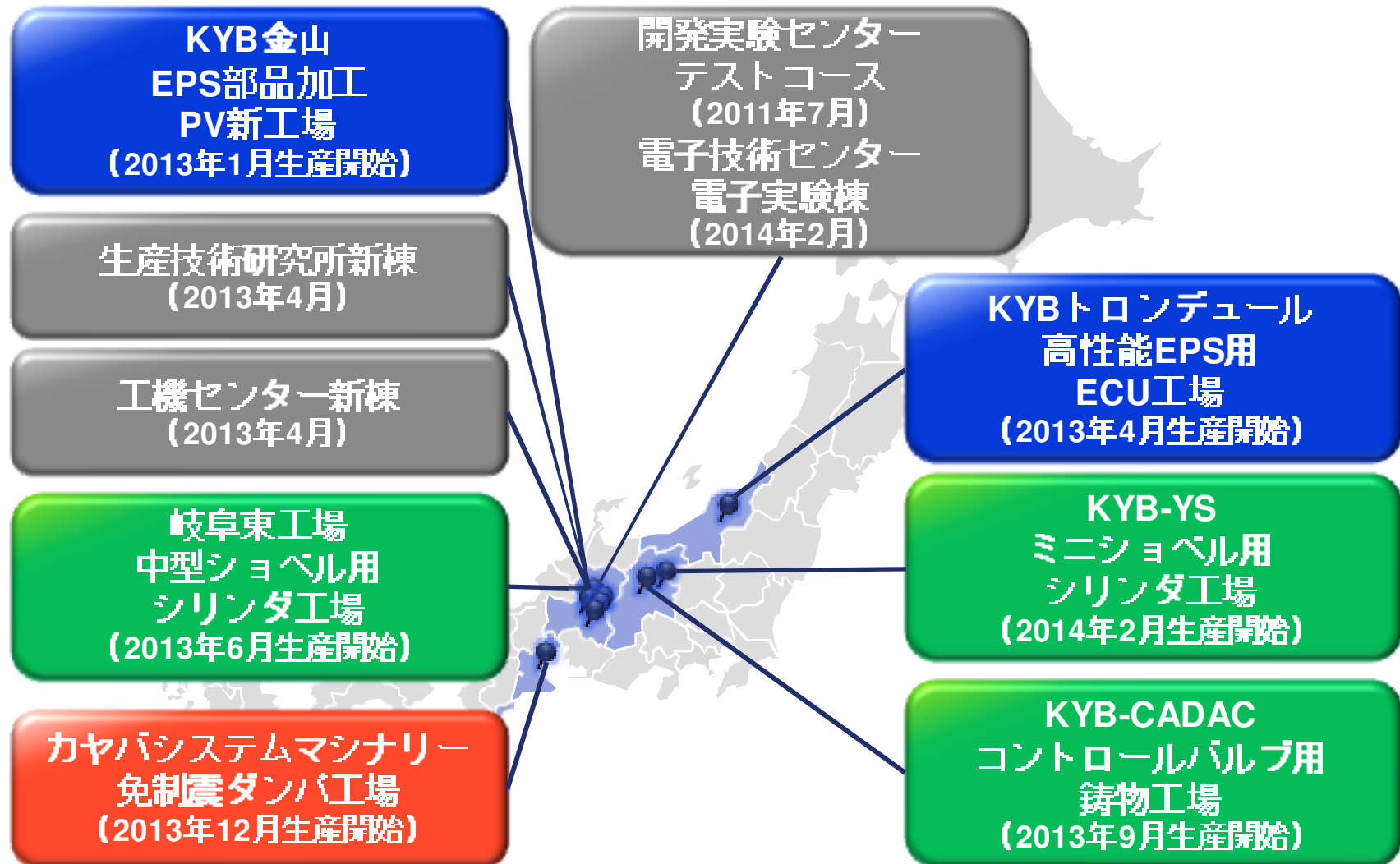
3-1. 11中期振返り(業績)



3-1. グローバル展開 (新規設立拠点のみ)



3-1. 国内展開



11中期では、種まきと基盤強化を行った

3-2. 現環境認識

国内

- 震災復興需要
- 東京オリンピック招致
- 増税に伴う駆け込み需要の反動

海外

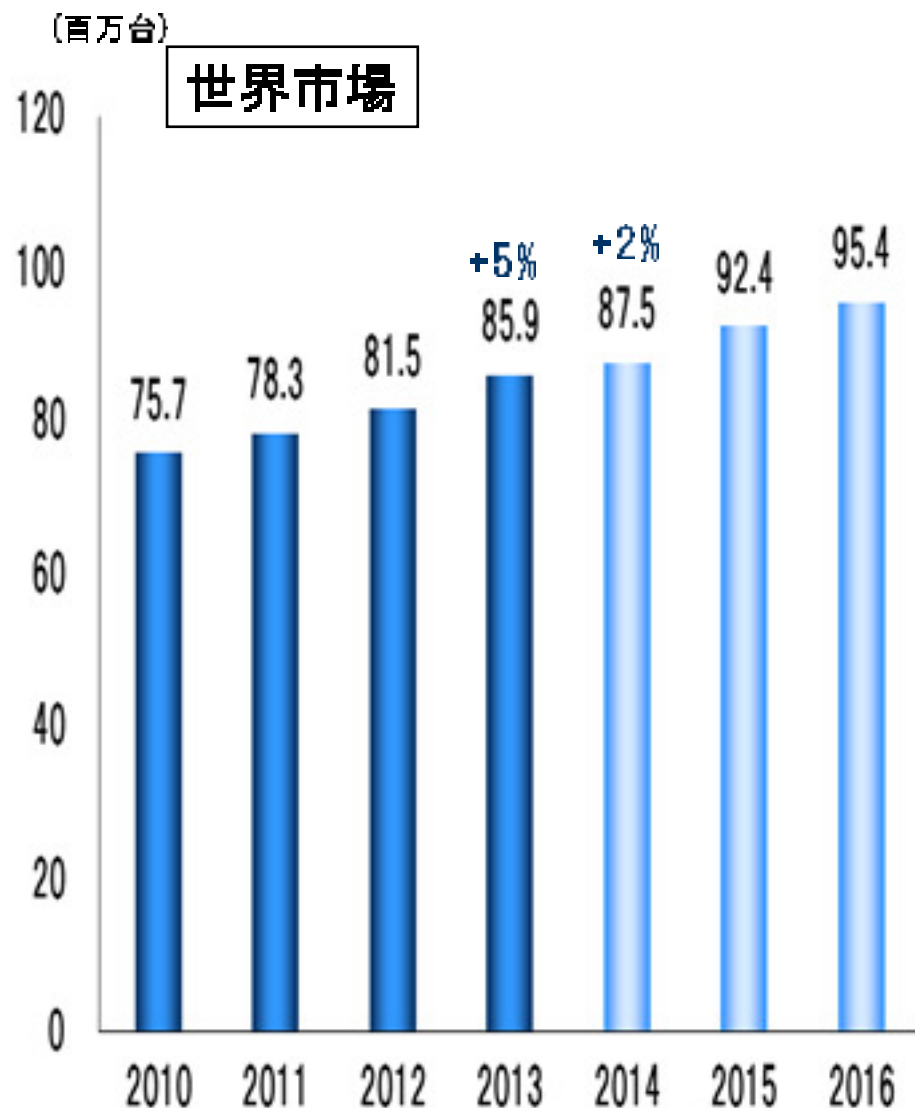
- 欧米では明るい兆し
- 中国の過剰生産能力や金融引き締め
- 新興国経済の減速や通貨安
- ウクライナやタイの政情不安

3-2. 市場環境(自動車)

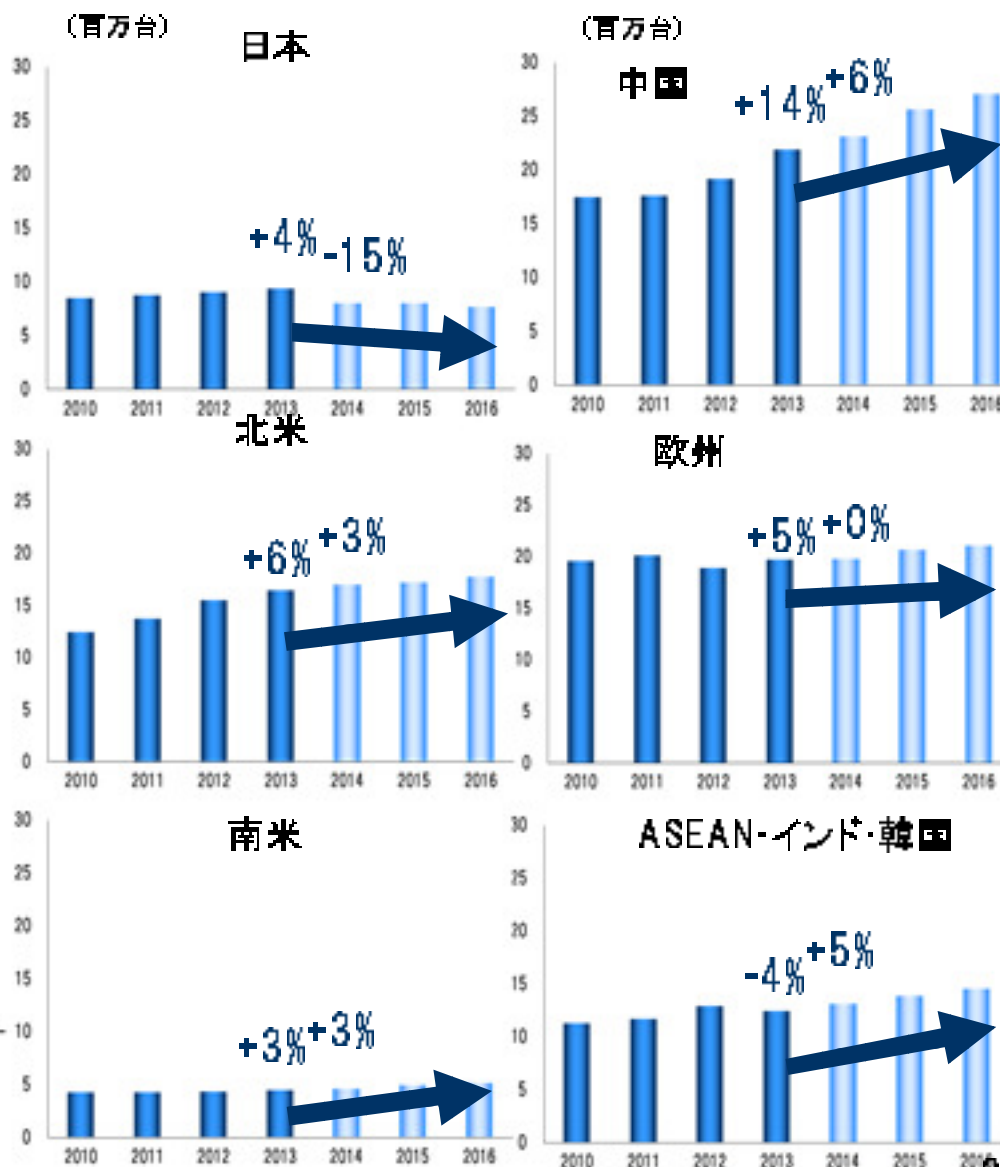
グローバル地域別生産台数予測



Our Precision, Your Advantage



出典: IHS 2014年3月末データ

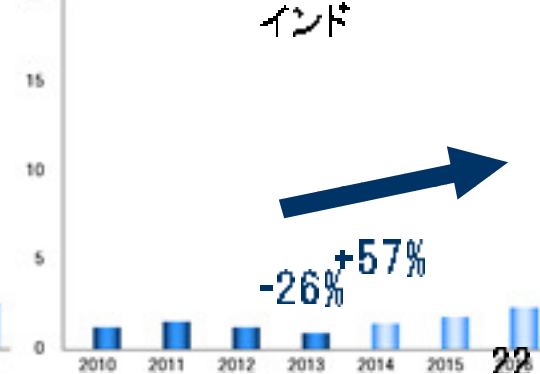
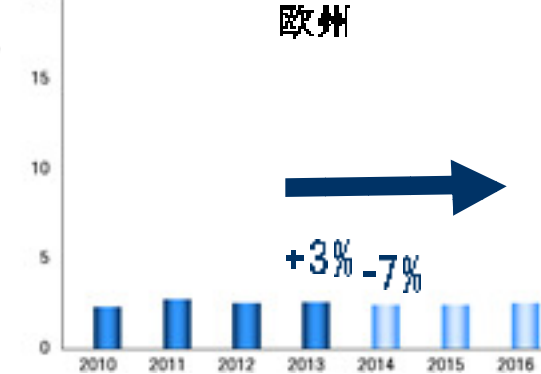
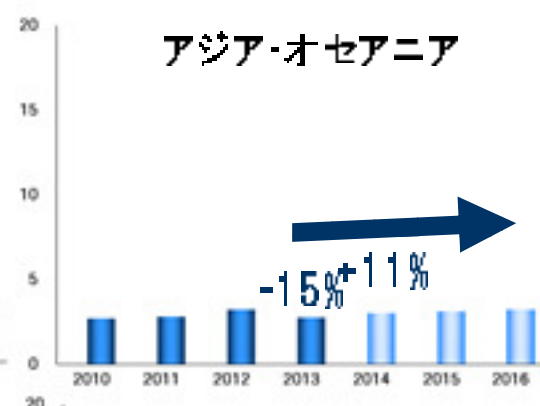
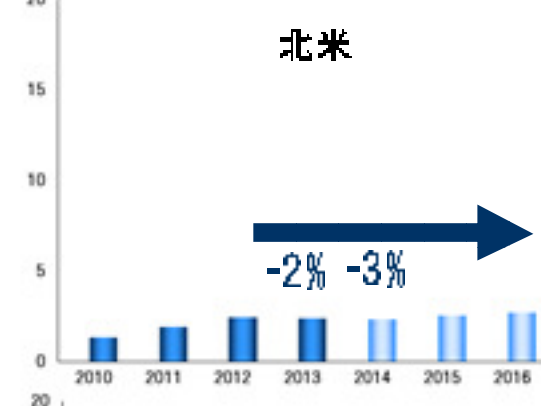
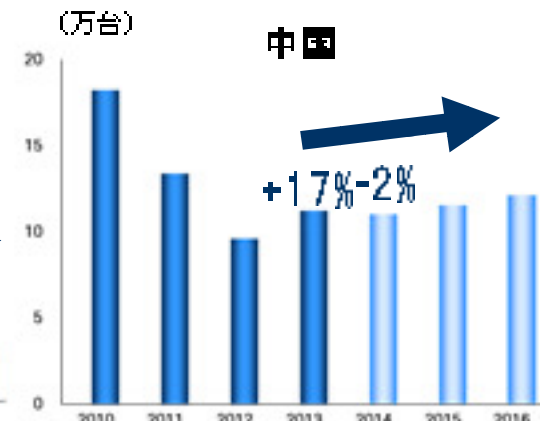
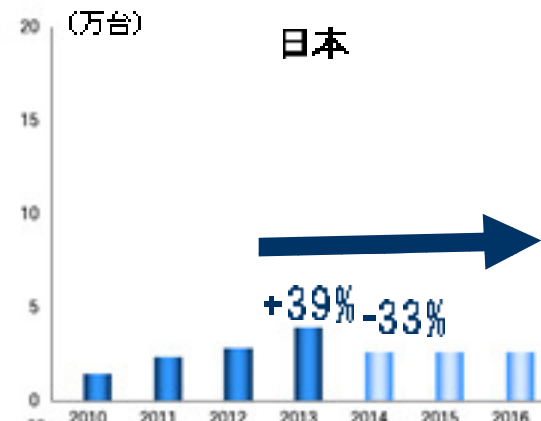
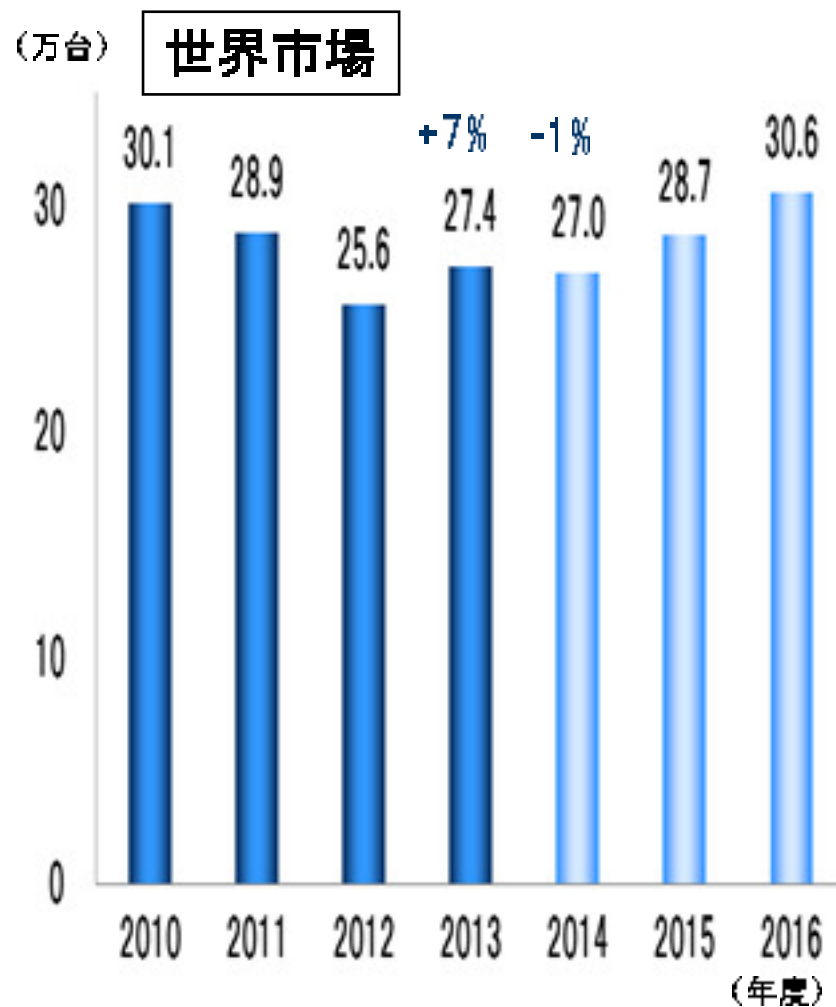


3-2. 市場環境(油圧シヨベル;6t以上)

グローバル地域別生産台数予測



Our Precision, Your Advantage



データ出典: 客先データをベースに当社で予測

■ 実績 ■ 2014年4月予測

3-3. 14中期経営戦略

2020ビジョン

KYBグループ力をもって
グローバルで戦い、世界で勝つ

Phase I
種まき
基盤強化

Phase II
攻勢
成長

Phase III
信頼
飛躍

2014-2016 14中期経営戦略

世界のお客様の信頼と受注を獲得
基盤強化から成長へ

更なる競争力向上

品質向上と高生産性向上による
グローバルコストの実現

新技術・新商品開発

大胆な差別化製品の提案とタイ
ミングを逸することのない開発

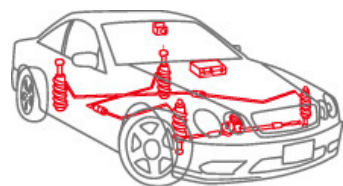
新市場・新分野参入

既存事業枠に捉われない新市
場・新分野への参入


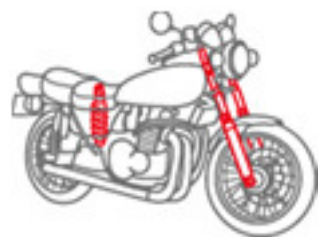
3-4. 14中期の取り組み(AC事業)



CVT用ポンプの拡販



世界の非日系自動車メーカーへの更なる拡販

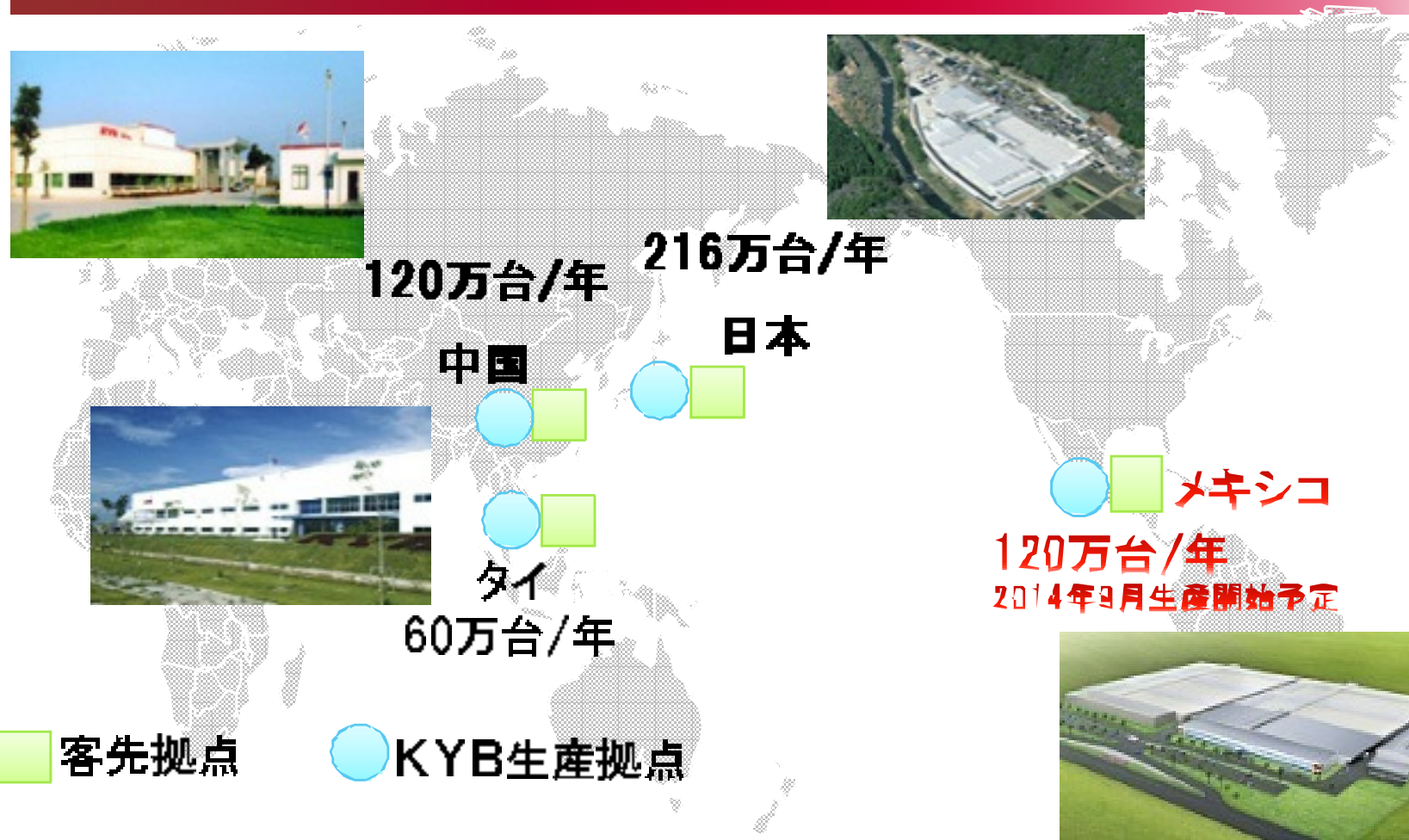


市販倍増体制構築(2020年:2,800万本/年)



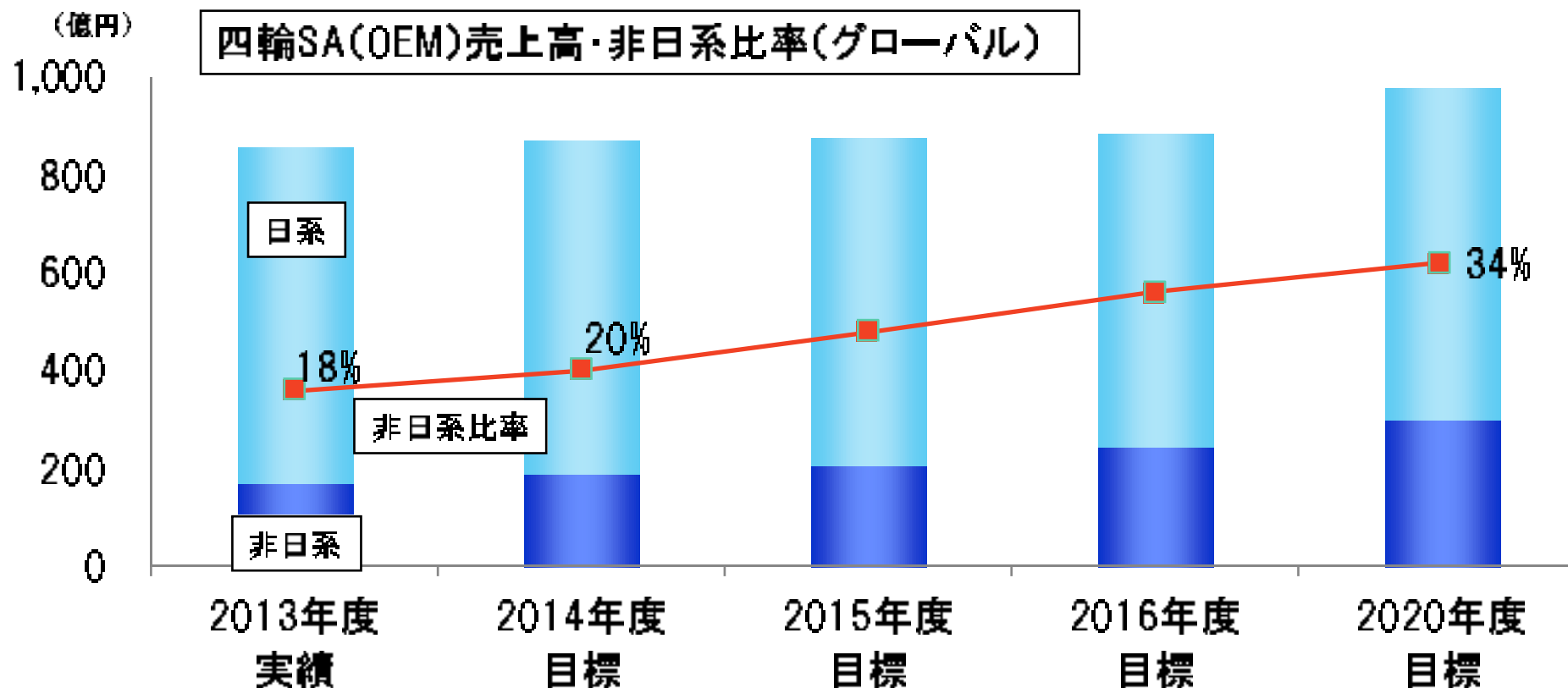
(二輪)合併効果の国内外の幅広いお客様への展開

3-4. CVT用ポンプの拡販



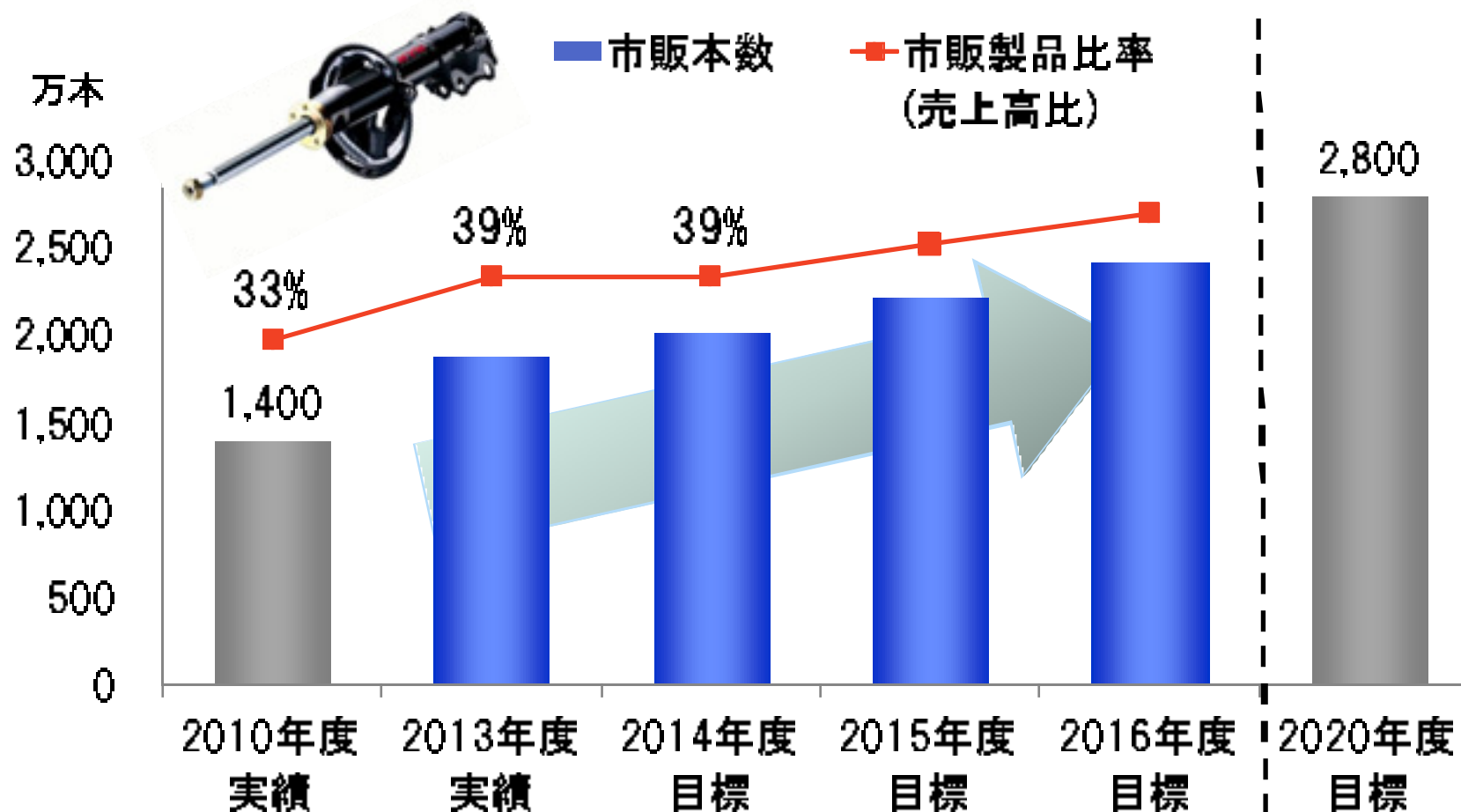
客先ニーズに応じたグローバル供給体制確立
四極体制: 336万台/年(2012)⇒516万台/年(2014)

3-4. 世界の非日系自動車メーカーへの更なる拡販



- 米系/独系カーメーカーへの拡販
 - … 高機能SA、システム製品の提案、新素材SAの提案
- PSAコアサプライヤーとしての生産体制整備

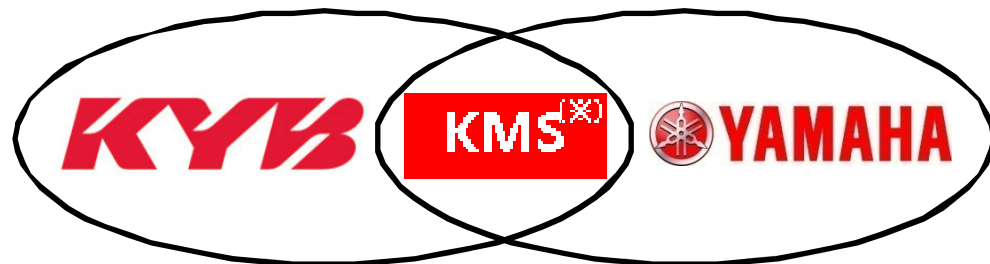
3-4. 市販倍増体制構築 (2020年:2,800万本/年)



2020年、市販製品のグローバル売上本数は
2010年度比倍増を目指す

3-4. (二輪)合併効果の国内外の 幅広いお客様への展開

※KYBモーターサイクルサスペンション機



コスト削減

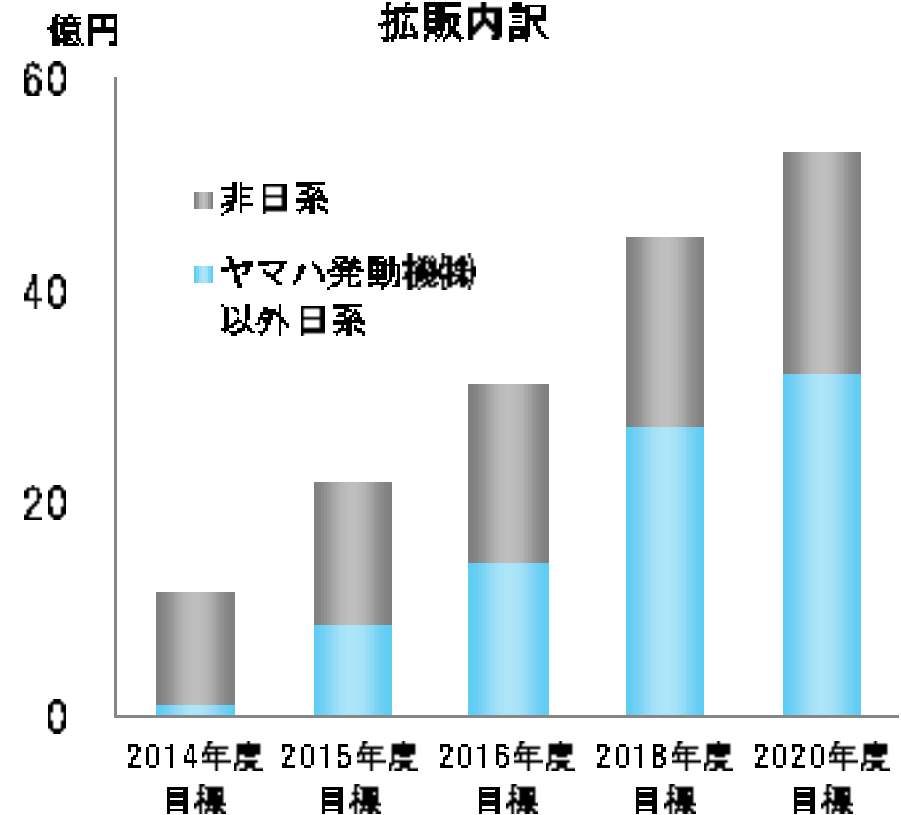
商品力向上

提案



「TRIGITY」
(2014年タイ向けモデル)

国内外の全てのお客様

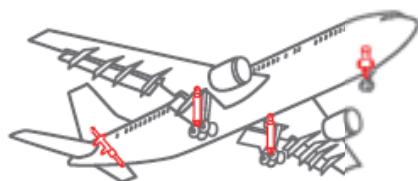


コスト削減、商品力向上を図り、グローバルで
全てのお客様へ成果を展開⇒拡販、非日系、市販

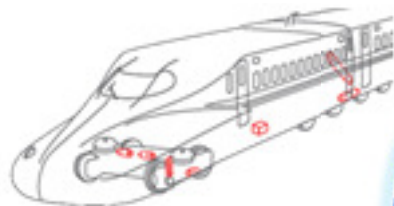
3-4. 14中期の取り組み(HC事業)



グローバルコストの実現とシェア拡大



中国地場メーカーとの取引拡大



非ショベル拡大(農機・鉄道・航空)

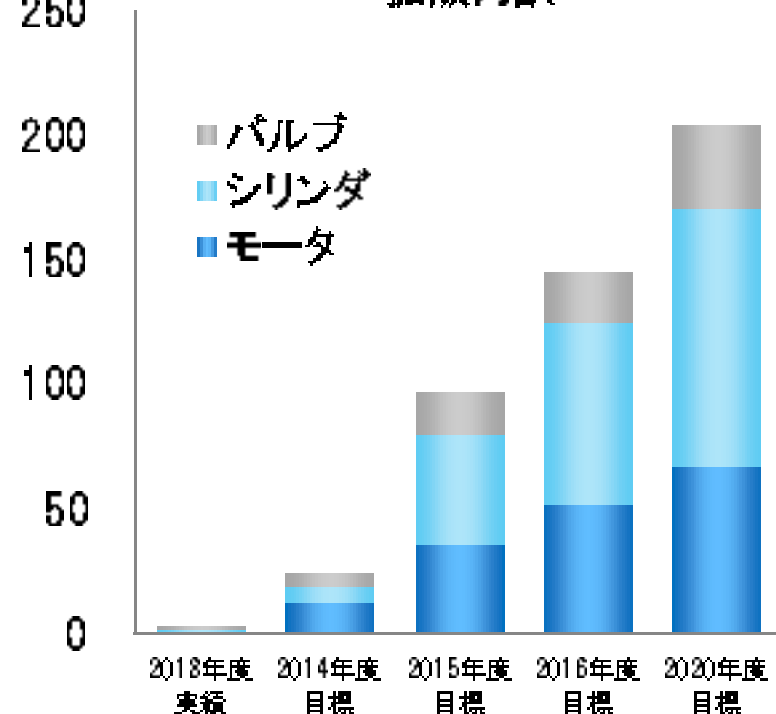
3-4. グローバルコストの実現とシェア拡大

原価低減目標

製品	2016年目標	方策
シリンダ	△30%	原価低減モデル開発 現地材のコストダウン 内製化拡大
走行モータ	△10%	グループ内製拡大 現地調達拡大 生産性向上

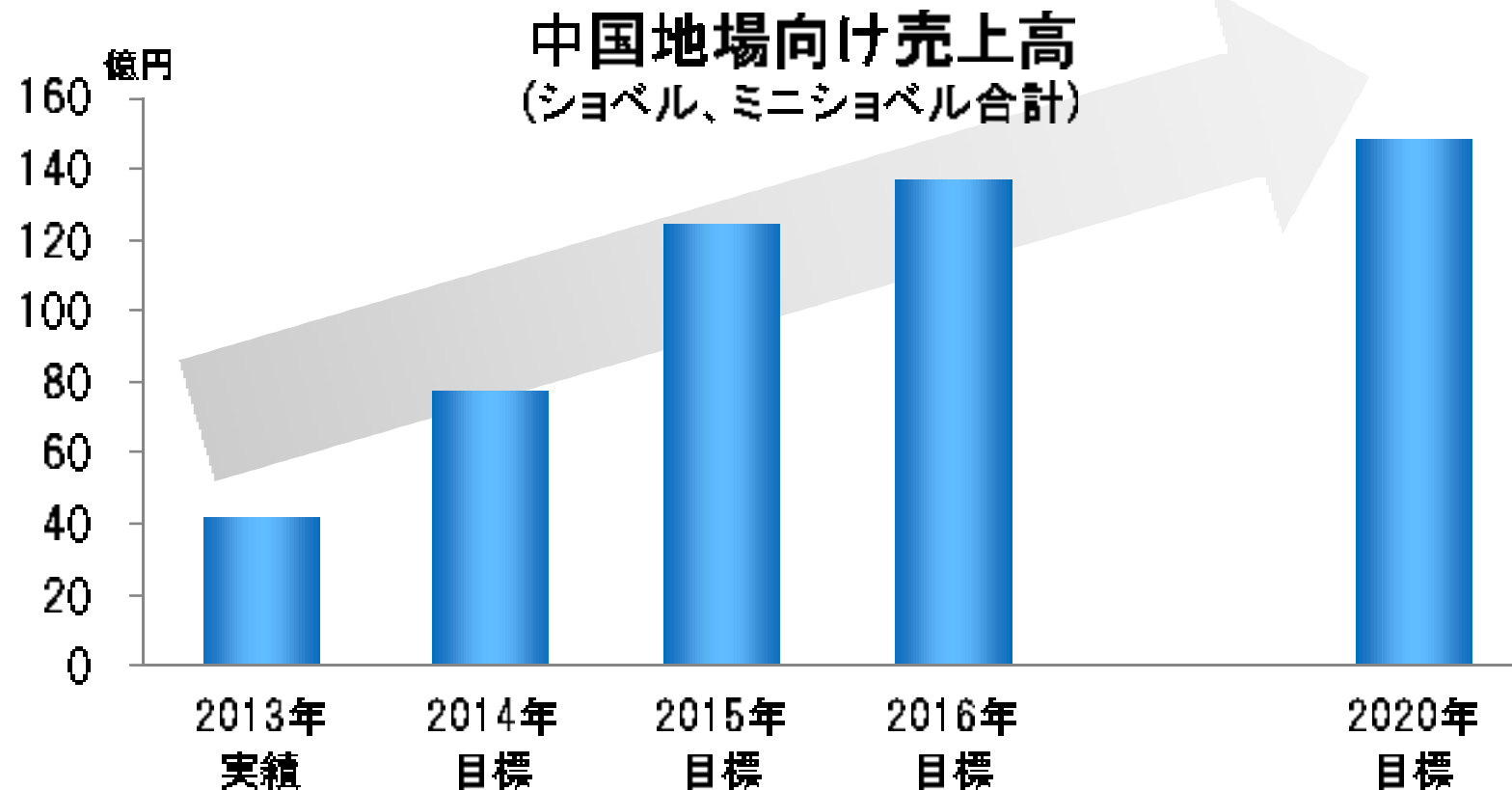
億円

拡販内訳



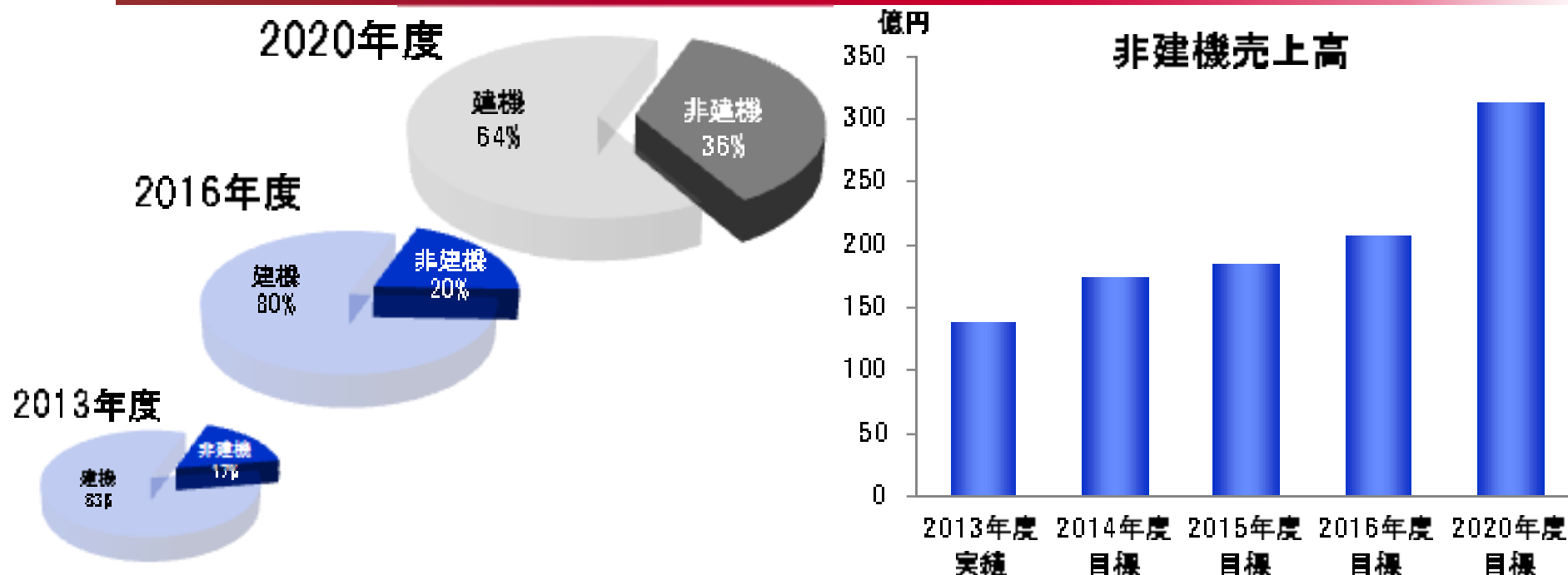
中国、インド、韓国の競合メーカーの脅威
 ⇒ 競合に勝つ原価の作りこみ
 ⇒ 拡販につなげ、シェア拡大へ
 (シリンダ、走行モータ)

3-4. 中国地場メーカーとの取引拡大



- ・ 拡販ターゲットは中国地場大手メーカー
- ・ ミニ・小型はシステムサプライヤーとして売り込み
- ・ 小型モータの中国生産移管で競争力を強化

3-4. 非シヨベル拡大(農機・鉄道・航空)



農機…拡大する中国市場・北米市場への拡販
鉄道…中国高速車両生産再開の対応
 海外メーカー(ビック3、中国2大メーカー)への参入・拡販
 海外インフラ需要への対応
航空…官需⇒国内Tier1企業(システムサプライヤー)の地位確立
 民需⇒B社以外への参入

3-4. 14中期の取り組み

(特装車両事業、システム製品および電子機器等)

KYB

Our Precision, Your Advantage

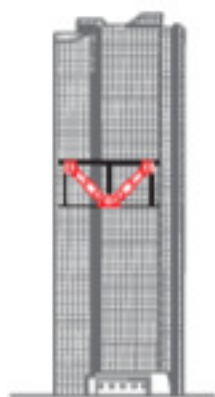
特装車両事業



オセアニア・インドでの拡販

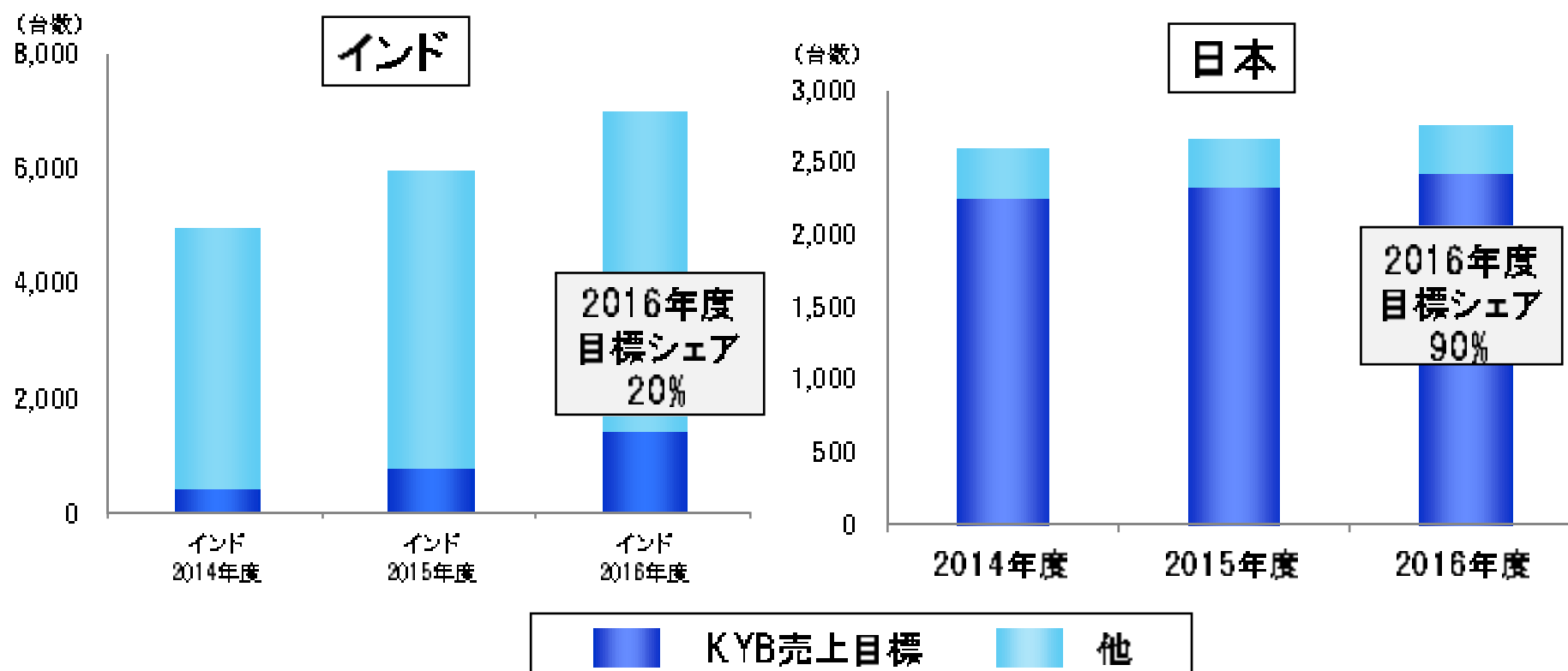
国内需要増に対応した生産販売体制構築

システム製品



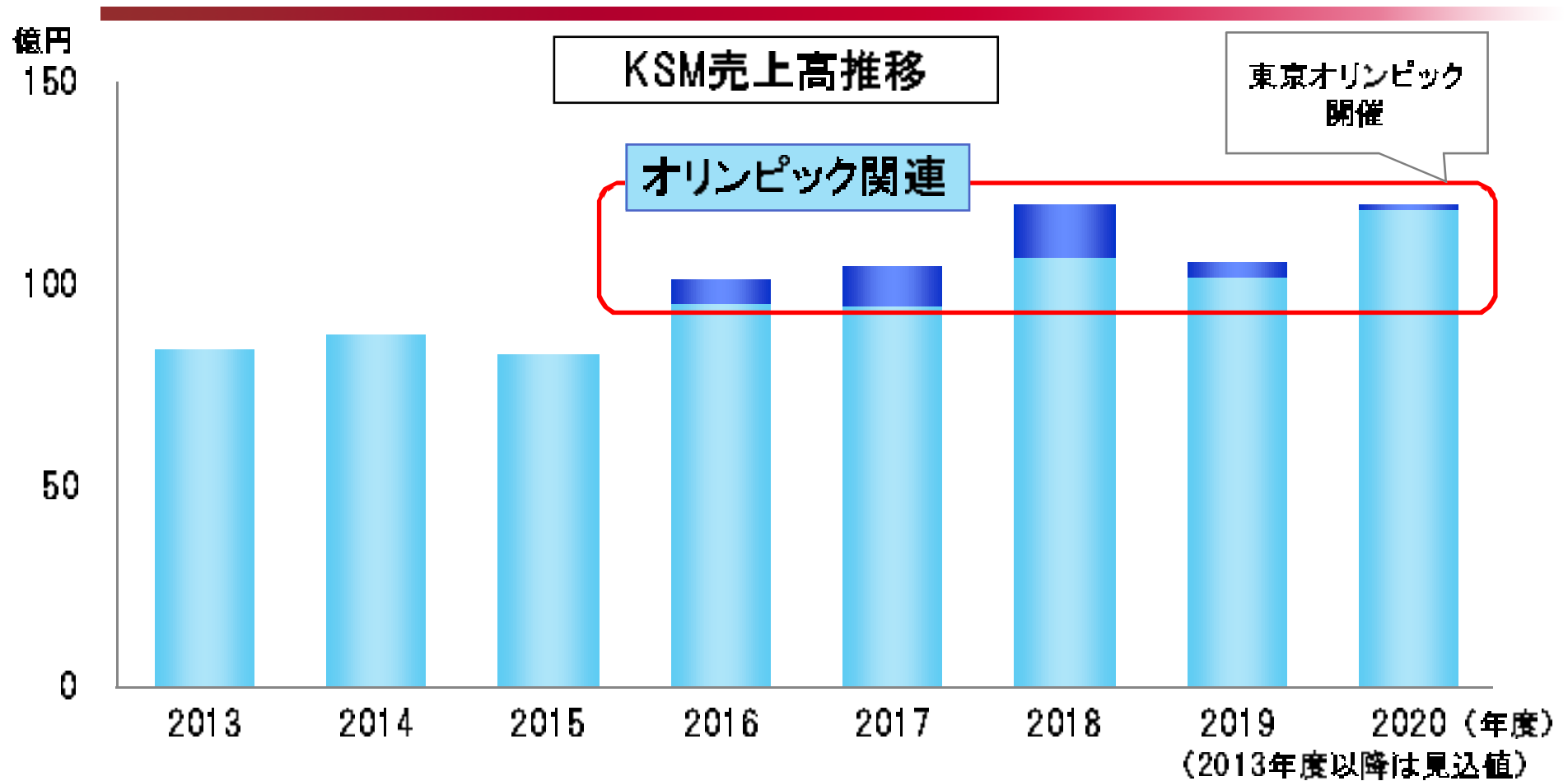
東京五輪ビジネス(舞台・免制震)の受注

3-4. オセアニア・インドでの拡販 国内需要増に対応した生産販売体制構築



- 省エネモデルのオセアニア市場投入
- 現地シャーシメーカーとのコラボ推進
- インドでの量産能力拡大
- 日本では、需要増に対応した生産体制を構築

3-4. 東京五輪ビジネス(舞台・免制震)の受注

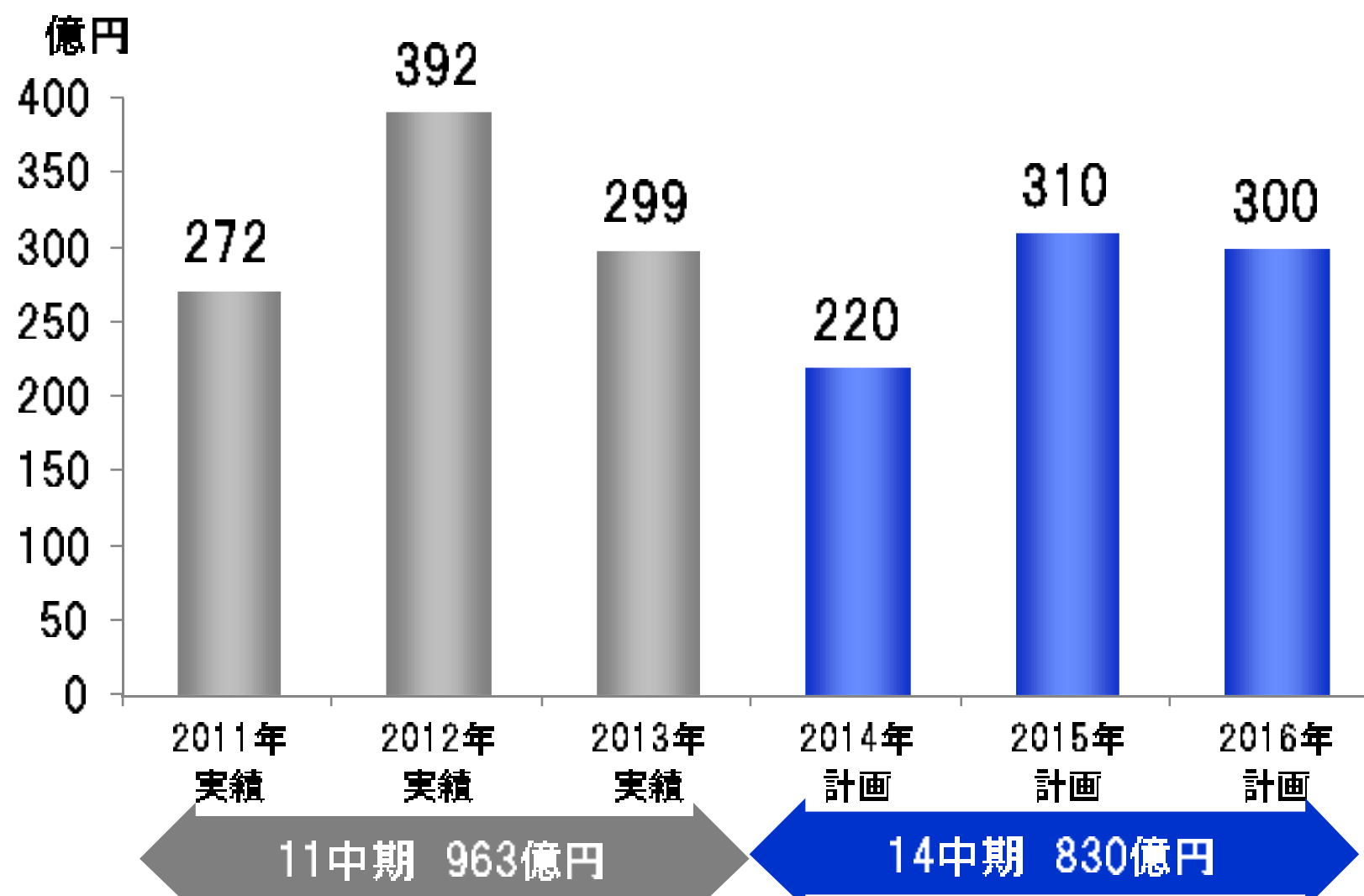


- ・オリンピック関連新規建築分の確実な受注
- ・インフラ整備など周辺ビジネスの取り込み

3-5. 設備投資



Our Precision, Your Advantage



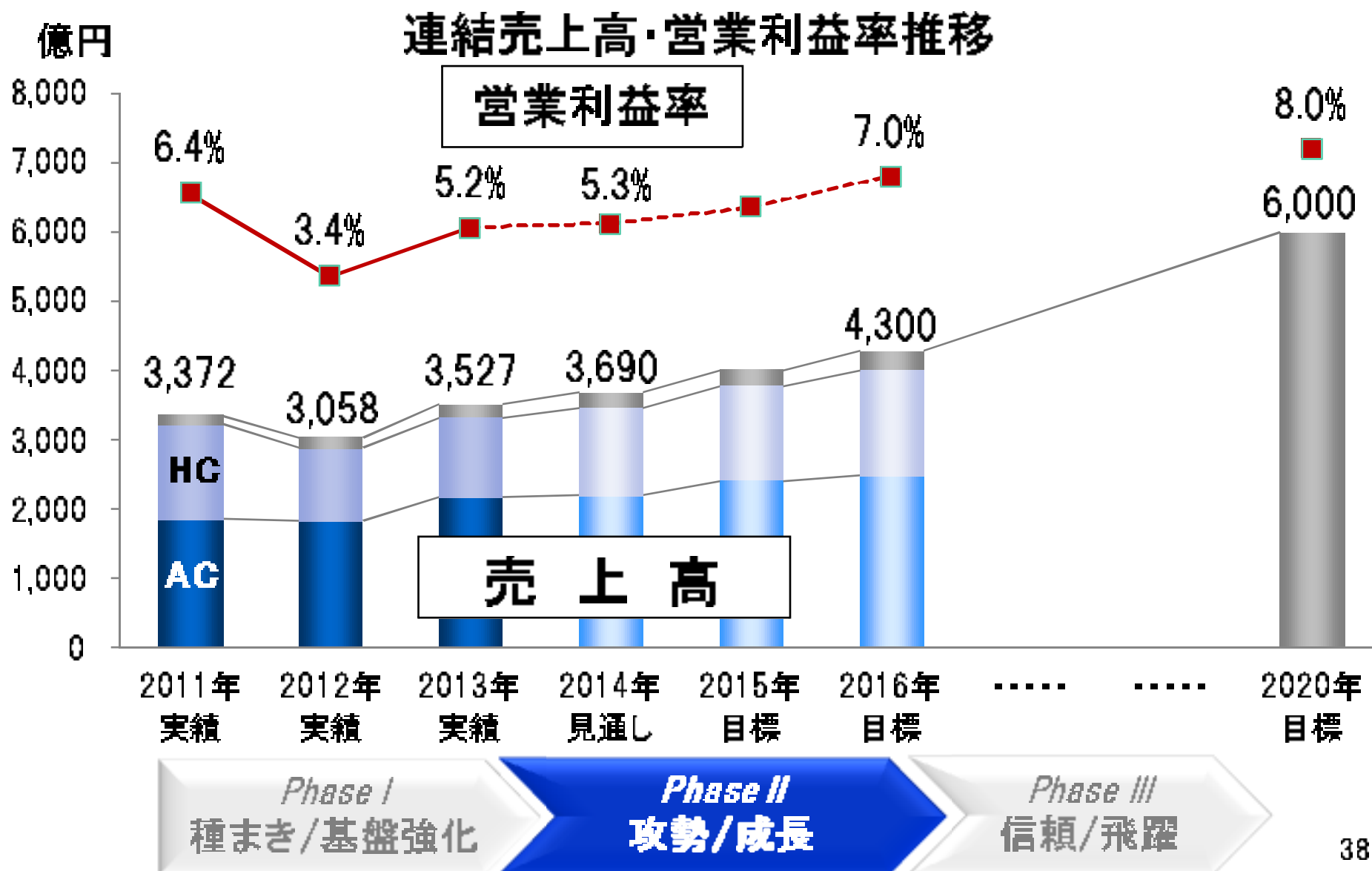
※2003-2013設備投資額は検収ベース、2014-2016設備投資額は予算(発注)ベース

3-6. 14中期利益計画

	2013年度 実績	2016年度 (中期)目標	2020年度 目指す姿
売上高	3,527億円	4,300億円	6,000億円
営業利益	182億円	300億円	480億円
営業利益率	5.2%	7.0%	8.0%

2020年度 売上高6,000億円、営業利益率8%
に向け、グローバルでの収益基盤の強化

3-6. 14中期利益計画





Our Precision, Your Advantage

ご注意事項

本資料のうち、業績見通し等に記載されている将来の数値は、現時点で把握可能な情報に基づき当社が判断した見通しであり、リスクや不確実性を含んでおります。

実際の業績は、外部環境及び内部環境の変化によるさまざまな重要な要素により、これらの見通しとは大きく異なる結果となる場合があることをご承知おき下さい。

お問い合わせ先

取材のお申し込み先 IR室 03-3435-3580(直) 担当:大谷